

図書館だより

第8号 2026/1/29

石巻工業高等学校 図書館



1月も終わりに近づき、寒さの中にも春の気配が感じられるようになってきました。3年生の皆さんには残り少ない学校生活を大切に過ごしてください。1・2年生の皆さんも学年のまとめの時期です。自分を振り返り、新しいスタートに向けて準備を進めましょう。

返却し忘れている本はありませんか？



図書館では本の点検作業をしています。貸出期限の過ぎている本は、速やかに図書館へ返却をお願いします。もし手続きをしないまま本を借り出している場合がありましたら、そちらも返却をお願いします。

特に3年生は期限までに忘れずに返却してくださいね。

※本は、廊下の返却ボックスに返すこともできます。



3年生返却期限：1月30日（金）

※卒業前に必ず返却してね！

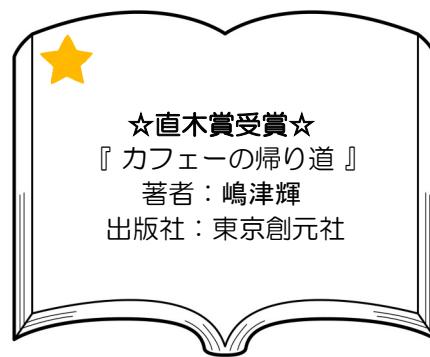
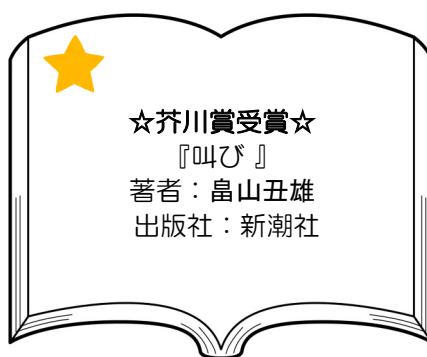
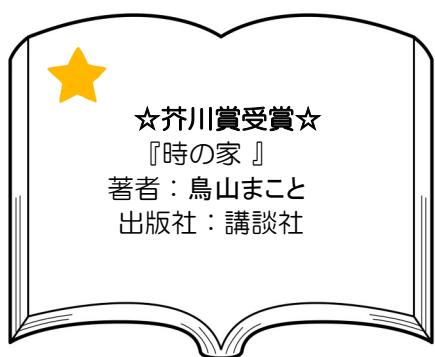
クラス別貸出冊数 (2026. 1. 23現在)

今年度の多読賞は1月30日(金)までに貸出した本の冊数で決定します。入賞者には賞状があります。

M 1	E 1	C 1	IC 1	A 1	M 2	E 2	C 2	1C 2	A 2	M 3	E 3	C 3	IC 3	A 3
31	52	21	41	110	10	4	13	4	18	152	3	10	18	5

第174回
芥川賞・直木賞受賞作
☆決定☆

1月14日（水）に選考会が行われ、第174回 芥川賞・直木賞の受賞作が決定しました！ 受賞作は順次図書館に入る予定です。ぜひチェックしてみてください。



〈2月のこよみから〉 立春 2月4日



2月4日は立春。まだまだ厳しい寒さが続くものの、日が少しずつ長くなり、窓辺には陽光があふれてきます。この季節は「光の春」と呼ばれています。

うめ一輪一りんほどのあたたかさ 嵐雪

立ち止まって落葉樹を見ると、木の枝が葉を落として寂しげに見えますが、どの木もぽつぽつと小さな冬芽をつけています。

冬芽の下には、落葉した葉柄がついていた跡があり、まるで動物の顔のように見えます。みんな、春を待ついい顔をしています。

2月の開館カレンダー

月	火	水	木	金
2/2	3	4	5	6
○	○	○	○	○
9	10	11	12	13
○	○	祝日	○	○放課後開館
16	17	18	19	20
○放課後開館	○	○	○	○
23	24	25	26	27
祝日	○	○	○	○

～「全校読書会」～

令和8年1月15日（木）に実施した「全校読書会」では、クラスごとに同じ集団読書用テキストを読み、意見を出し合いました。今回は各クラスから出された意見や感想を紹介します。

1学年



M1 『千代に八千代に』 重松 清 著

・日々生きていることの大切さがわかる物語でした。登場人物の気持ちなどが現実的で、自分の身近なことのように感じました。友だちの中でも様々な形の友だちがあり、その中の関係も色々だと思いました。

E1 『彼女のアリア』 森 絵都 著

・「すべて嘘だったかもしれない」という疑問と衝撃が押し寄せた時の主人公の気持ちを考えて、どれほど不安だったのかと、同情するような気持になりました。相手のための嘘ならいいけど相手をどこかで傷つけてしまう嘘はよくないと考えました。

C1 『喝采は「アイ・ラブ・ユー」』 黒柳 敬子 著

・「どれだけの人が協力してくださったか、数えきれない」というフレーズが心に残りました。自分の生活もいろいろな人に支えてもらってできていることを再認識できました。

IC1 『夕日へ続く道』 石田 衣良 著

・人生に迷っていても、人との出会いによって少しずつ前を向けるようになるという点が心に残りました。将来が見えなくても歩き続けることで道はつながっていくというメッセージに心を打たされました。

A1 『狐フェスティバル』 瀬尾 まいこ 著

・田舎と都会。住む場所の違いで、こんなにも考え方方が異なるということが印象に残りました。どっちが正しい？とかではなく、理解しあうことが大事だということを作者は伝えたかったと思います。



2学年

M2 『ガイド』 小川 洋子 著

・母、子ども、小父さん、小母さん。登場人物全員が優しくてよい話でした。何気ないことや思い出に「名前」をつけることで、言葉や記憶を大切にする生き方は、静かだけどとても豊かだと感じました。

E2 『練習球』 あさの あつこ 著

・律と真郷が互いに妬ましく思うことがありながらも、その気持ちを出さず最後には信頼し合い、共に試合に臨んでいる場面が印象に残りました。周りの人と自分の比較に共感できました。

C2 『鼻』 芥川 龍之介 著

・内供は強い自尊心を持っている一方で、鼻に対する劣等感に強く支配されている人物だと感じました。結局は人間性や性格が大事で、見た目に關しては自分が気にしないのが一番だと思いました。

IC2 『ムーンライト・シャドウ』 吉本 ばなな 著

・大切な人を失った悲しみは簡単には消えないけれど、人との出会いや時間の流れによって少しずつ立ち直り、成長していく姿が印象に残りました。情景の描写が丁寧でわかりやすく、実際にその場にいるような気持になりました。

A2 『夏の階段』 梨屋 アリエ 著

・少年の「大人と子供の間」という成長段階と、独特的の考え方や周りの見え方など、変化が上手に書かれていて面白かったです。厳しいようで優しいおばあさんの行動が印象に残りました。



3学年

M3 『高瀬舟』 森 鳩外 著

・今世界で問題になっている安楽死について、大正時代にすでに森鷗外が触れていることに驚きました。この作品は生きることと幸せを自分なりに考え、向き合う大切さを教えてくれました。

E3 『ベラルーシの透明な夏』 佐藤 しのぶ 著

・残酷な現実と子供達の状況を知つて原発事故に対しての恐怖を改めて感じました。本文の最後の「音楽は人を結びつける大きな力、奇跡を起こす大きな力がある」という言葉が心に残りました。

C3 『赤毛連盟』 アーサー・コナンドイル 著 鈴木 幸夫 訳

・赤毛連盟という不思議な話の裏に犯罪が隠れていたところが印象に残りました。シャーロック・ホームズの心情がわかりやすく描かれていて、観察力の鋭さに驚かされました。読者も一緒にだまされる構成で読みごたえがありました。

IC3 『伊豆の踊り子』 川端 康成 著

・踊り子の純粋さに触れることで、人を信じる気持ちを取り戻していく主人公に成長を感じました。踊り子への思いを抱きながら、深く踏み込むことがない、というところが「青春」らしいと思いました。

E3 『最後の一葉』 O・ヘンリー 著 大久保 康雄 訳

・ジョンジーのためにベールマンが台風の中、葉を描いたというところが印象に残りました。ジョンジーは、目標を決めなければ生きていけると思えなかったから、外に見える葉を生きがいのようにしたと思います。希望や他者の支えが、生きようとする気持ちに繋がると思いました。